

## 新池川をきれいにする会が 「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞

平成30年5月26日に、滋賀県の長浜ドームで開催された第29回全国「みどりの愛護」のつどいで、鳴門市のボランティア団体「新池川をきれいにする会」が、花と緑の愛護に顕著な功績のあった団体に対し、その功績をたたえ国民的運動としての緑化推進活動の模範として表彰される「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞されました。

「新池川をきれいにする会」は、平成23年3月1日、新池川に美しい自然と楽しい水辺を取り戻すことにより、自然と共生できる魅力あるまちづくりを進めることを目的として発足し、以来これまで新池川周辺で、年間を通じた清掃・除草や花植え活動などをはじめ、植栽・EMによる水質浄化運動やウォーキングロードの整備など誰もが気軽に集まってくることができ憩いの場所づくりなどの取り組みが高く評価され今回の表彰につながったものです。

## 鳴門市ハマボウ・ヒマワリ祭りが開催されました

鳴門市花街道・地域づくりネットワークが実施する2018鳴門市ハマボウ・ヒマワリ祭りが今年度も7月1日（日）～29日（日）にかけて開催されました。

期間中は、ハマボウの交流接待所として木津神地区のふれあい運動場で、ヒマワリの交流接待所として鳴門ウチノ海総合公園お花畑で開設されました。訪れた人たちはハマボウやヒマワリの花を觀賞しながら、接待所の心温まるおもてなしに暑い夏のひとときを満喫していました。



木津神地区ふれあい運動場の交流接待所



鳴門ウチノ海総合公園お花畑

## 平成 30 年度 コミュニティ研修会レポート

### コミュニティにできること

#### ～ 地域共生の道筋づくり～



田中 逸郎氏（豊中市元副市長）  
による講演

鳴門市自治振興連合会主催による平成 30 年度コミュニティ研修会が 6 月 16 日、うずしお会館において開催されました。

今回の研修会は、「コミュニティにできること ～地域共生の道筋づくり～」と題して、豊中市元副市長の田中逸郎氏を講師に招いて行われました。研修会には各地区自治振興会の関係者や老人クラブ連合会、婦人連合会などのみなさんが大勢集まり、講師の話に熱心に聞き入っていました。

講演では、これからの地域社会は、これまでの公私二元論や公民役割分担論ではうまくいかないことなどが、さまざまな事例などを例示しながら説明され、公と私の中に、公と私よりよい、お互い、知恵と汗と能力を出し合っ

つくる豊かな公共空間をつくっていくことが重要となっているとの考え方を示されました。続いてそうした考え方のもと、豊中スタイルと呼ばれている現在の地域自治システムの構築に至るまでの、試行錯誤しながら取り組んできた豊中市のこれまでの歩みが紹介されました。

豊中市における、ここ 20 数年の状況や取り組みについては、当初は、「住民の声をより反映した公共サービス」ということで始まった市民参加のやり方が、言いつばなしの市民と聞きつばなしの行政という構図になり、まちづくりがジレンマ状況になったことから、豊中市まちづくり条例がつけられたとのことでした。この条例で、市民主導のまちづくりの推進づくりを進めていくこととしたものの、決定権などの公共運営の仕組みが従前のままだったため、公共イコール行政が再生産される状況は変わらなかったそうです。

そこで、阪神淡路大震災以降の NPO の台頭や地方分権一括法などの制定を契機に、議会や行政のありかたを変えようとのねらいもあって、豊中市市民公益推進条例を制定したところ、このあたりから、少しずつですが、豊中市も変わり始めてきたそうです。

その後 2007 年の豊中市自治基本条例の制定や、2008 年からの行財政改革で取り組みの中で、公共領域における行政の役割を明確化するなどを経て、2012 年には「新たな地域自治の仕組みづくりの構築」ということで、コミュニティの再興による住民自治の充実をはかろうと豊中市地域自治推進条例を策定し、現在に至っているとのことでした。

豊中市における公・共・私の連携による自治の仕組みは、自治体や議会が担う団体自治と市民が担う住民自治のあり方や関係性を問い直す公共運営の再構築とコミュニティの再興による住民自治の充実をはかる新たな地域自治システムの構築という二大テーマを、双方向で相関関係をもって進めるというものです。

具体的には、総会・運営委員会のある意思決定機関と活動部会などを持つ実行機関のある、さまざまな諸団体や個人などで構成された地域自治組織と市側の地域担当職員や各部におかれた協働推進員や課題別のプロジェクトチームの結成などの市の庁内推進体制が協働連携して、まちづくりを進めていくというものですが、豊中市が他の自治体と違うのは、全市一律の画一的な取り組みではなく、地域特性や課題に応じた様々な連携やネットワークにより取り組みが展開されるよう、「地域住民の主体性」、「段階的なステップアップ方式の取り組み」ということを主眼の一つひとつ丁寧に進めているとのことです。

その他、地域社会を多様な主体が連携して担う自治を実現するためには、まずは自治体が変わらなければいけない。そこから、住民もまた変わっていくとの話や、団体自治と住民自治の活性化・相互連携のためには、開かれた井戸端会議が大事であること、また、本来の補完性の原則とは、その地域や自分たちでしかできないことをやるという意味であるなど、新たな気づきを与えてくれる話題も随所にちりばめられていました。

最後に、地域諸課題は住民の生活全般に亘っており、そうした中、地域で活動を行う住民も様々な価値観を持ち異なる組織に属しており、活動目的もニーズも追求する利益や関心も違うことから、地域のコミュニティなどの協議体は、意見の一致を急ぐのではなく、こうした互いの追及する利益や関心の相違を知り、それぞれの主体性を尊重しつつ、関係を調整することが求められているとの話で講演をしめくられました。

限られた時間の中ではありましたが、豊富な話題と、あきさせない語り口でよどみなく話され、内容と密度の濃い、これからのコミュニティを考える上で非常に参考となる講演会となりました。

## NARUTOフラガール・プルメリアの紹介

田口 許江

鳴門市は、平成 18 年鳴門市長寿介護課の高齢者介護予防事業として、65 歳以上の人の対象にフラダンス教室を開設しました。私たちは、その教室で学んだ踊りを忘れないために、平成 23 年「おさらい同好会」を結成し、月 1 回集まり練習に励んでいました。

その後、会員の親睦と健康増進、そして、社会貢献に役立つボランティア活動を目的に、平成 28 年「NARUTO フラガール・プルメリア」を設立したのです。踊りの練習は、毎月第 2 木曜日 10 時～11 時、場所は消防庁舎 3 階で踊っています。今まで、教えていただいた曲目は、20 曲以上となり、年代の近い順から「おさらい」をしています。内容は、はじめに「阿波踊り体操」で体をほぐし、ベーシック 30 分、休憩をはさみ、フラダンスを 4～5 曲復習しています。会員となるには、長寿介護課が実施しているフラダンス教室に登録していることとしており、会費は 1 回 100 円としています。

### 地域活動の内容

- ① 鳴門市敬老の日のつどい
- ② 鳴門市芸能際
- ③ うずしお福祉フェスティバル
- ④ 鳴門市チャレンジデー
- ⑤ 施設訪問事業
- ⑥ 新年会・総会



イベント参加・施設訪問を行うためのボランティア保険に加入し、会員の健康管理を行いながら、各個人に見合ったフラダンスを楽しく「健康 100 歳」を目指して頑張っています。

フラダンスに興味のあるかた、ぜひフラ教室へおこしくださませ。



# NPO法人 徳島県広域健康スポーツクラブ

理事長 吉岡 勲

当法人は平成 30 年 1 月 30 日に設立し、同 2 月 9 日に登記完了しました。

当法人はシルバー大学院で習得した知識と技術を活かし、スポーツ・レクリエーション活動などの普及活動を通じて、生涯健康スポーツ社会の実現に貢献しようと、現在さまざまな活動に取り組んでいます。

5 月には、徳島県シルバー大学校大学院第 15 期生の健康スポーツ講座で学生の体力測定部門の講師を務めるとともに、当法人のメンバーが学生全員の体力について「握力」「屈伸」「速歩」等 7 種目にわたって測定するなど、講座の運営支援を行いました。

また、6 月 26 日、美馬市立美馬中学において徳島県広域スポーツセンターが主催する「幼児期の運動能力測定」事業が実施されましたが、当 NPO 法人からは 7 名のスタッフが参加し、大勢の参加者を対象とした測定事業の円滑な運営に協力しました。

7 月 24 日にも同じく「幼児期の運動能力測定」事業を阿南市 長生小学校に 5 名のスタッフが出向き実施することになっています。

「スポーツでとくしまの子どもたちを笑顔と元気に！」をモットーに活動している団体「えがお+for kids sports」の主催で、7 月 13 日、アミノバリューホール視聴覚室において開催された防災講演会には当 NPO 法人は主催者協力という形で参加しました。当日は 50 名の参加者でしたが、内半数あまりを当 NPO 法人の会員が、呼びかけに応じ、参集してくれました。

講演会は、陸前高田市米崎中学校仮設住宅の元自治会長で現在 NPO 法人陸前高田体育協会会長の金野廣悦氏を講師として行われました。「仮設住宅での自助力・共助力の向上の取り組みからの学び」という演題で、2011 年 3 月 11 日に発生した「東日本大震災」での陸前高田市の被害概況から復興に至るまで、とくに「米崎中学校仮設住宅自治会の活動」では、長引く仮設生活の中で、心身の影響や負担が少しでも減り、笑顔になれるような「ラジオ体操」「お茶のみサロン」「運動会・文化祭」など様々な自治会の実践活動などについて話され、心強かったこと、感激したこととして、自衛隊、警察、消防、給水活動及び各種支援とボランティア活動をあげられていました。

講演会終了後、主催者から「エコノミー症候群予防運動」の実技指導があり、身体の「源」腰の運動、背中のは心の「顔」の運動、また身体と頭の運動等わかりやすく教えていただきました。そして最後には西日本豪雨で被災された方々にメッセージを託した風船を飛ばすなど、有意義な催しとなりました。

7 月 27 日からは、シルバー大学校徳島校をはじめ県下 8 校のシルバー大学校で「阿波踊り体操」「ニュースポーツ」の講演を順次行う予定です。

なお、昨年は、県などが主催する「災害時健康サポート養成講習会」、本年は「災害時ボランティアコーディネーター養成研修会」を受講するなど、会員の能力のスキルアップをはかっており、今後、そのノウハウを地域社会に役立てていきたいと考えています。



防災講演会に参加



日常活動の風景